opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 76

1974年の南米司牧旅行において、聖ホセマリアはブラジルに2週間滞在したのち、アルゼンチンに向かいます。

2025/07/02

過去の記事はこちらから

6月7日アルゼンチンに到着。そこでの活動はブラジルと同じようなものでしたが、この国のオプス・デイの成長ぶりは聖ホセマリアを驚かせました。首都ブエノスアイレスでは一

般の人々を招待する団らんは6回行われましたが、最後の2回は5千人収容の劇場(写真)で行われたにもがにした。かわらず、入場できなかった人話にもがにながした。参加者との苦した。ある女優さんははもなりました。ある苦境を訴えないる苦境を訴えなくなるというものです。

実を結びます」と最後まで励まし続けました。

広い会場で大勢の人を相手に話すこ とによって、パドレは喉を痛めまし た。またアルゼンチンからチリへの 飛行機の中で、空調設備が故障し寒 さのため風邪を引きます。それでも チリでは活発に働きました。しか し、ペルーに移ると体調を崩し医者 は休養を命じられます。そのおかげ で少し容態が回復し大勢の人との団 らんもできましたが、エクアドルに 着くと本当に倒れてしまいました。 最大の原因は町が標高3千メートル 近い高地にあったことです。そこで ベネズエラに移動し療養することに しました。

活動的な聖ホセマリアにとって療養はもどかしいことでした。メンバーたちはいろんな仕方でパドレに愛情を示し、パドレもそれに応えていました。少しでも元気になると喜んで

彼らとの団らんを持ちました。しかし、回復の見込みが見えてこないので、とうとう予定されていたグアテマラへの訪問をキャンセルし、8月31日ローマへの帰途につきました。近々戻ってくるとの約束を残して。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-76/(2025/12/12)